

EPA介護福祉士候補者の 受験状況と試験における配慮

EPA候補者の介護福祉士国家試験の受験について

1 第24回介護福祉士国家試験の実施について

○ 本年度の介護福祉士国家試験より、EPA候補者が初めて受験

(参考1) EPA候補者受験者数 計95名

・EPA介護福祉士候補者(インドネシア20年度入国者) 94名

(うち実技免除者(筆記試験のみ)80名、実技試験必要者14名)

・EPA介護福祉士候補者(フィリピン21年度入国者) 1名(実技試験必要者)

※1 インドネシア入国者数104名(10名は雇用契約終了)。雇用契約中の者は、全員受験

※2 フィリピンの1名はEPAによる来日前に国内の就業期間があり、3年間の実務経験を満たしている者

(参考2) 本年度介護福祉士国家試験受験者数 137,961名(対前年▲10.5%)

・過去の受験者数 154,223名(平成22年度試験) 153,811名(平成21年度試験)

2 合格発表までのスケジュール

○ 筆記試験 1月29日(日) 28都道府県で実施

○ 実技試験受験案内 2月17日(金) 発送

○ 実技試験 3月4日(日) 12都道府県で実施

○ 合格発表 3月28日(水) 13時(一般受験者と同様、実技試験免除者を含め合否発表)

3 EPA候補者への配慮

○ 試験問題における難解な用語等に配慮(昨年度より実施)

※ 難しい漢字へのふりがなの付記や、疾病名への英語併記等

○ 試験地を各都道府県1会場において、一般の受験者と別室にて受験
(試験の事前説明の丁寧な対応のため)

今後の介護福祉士国家試験における難しい用語の取扱いについて ～EPAによる外国人候補者などの受験に配慮します～

厚生労働省は、財団法人社会福祉振興・試験センターと共同で、来年実施予定の平成22年度介護福祉士国家試験について、介護福祉士国家試験委員会において検討をすすめてきた結果、EPA(経済連携協定)に基づく外国人介護福祉士候補者などに対して配慮するため、試験問題中で使用される難しい用語を一部見直し、分かりやすい表現にしていくこととしました。

委員会では、「利用者の安全確保に影響がないか」「専門職として当然知っておくべき用語か」「関連職種と連携して業務を行う上で支障が生じないか」といった観点から検討を行いました。

その結果、

- 1: 易しい用語に置き換えても現場が混乱しないと思われるものについては、置き換え、ふりがな、複合語の分解、平易に表現するなどの方法で見直しを行う。
 - 2: 介護、福祉、医療などの学問上・法令上の専門用語は、原則として置き換えないが、難しい漢字にはふりがな、英字略語には正式名称と日本語訳をつけ、疾病名には英語を併記するなどの改善を図る。
- という方針を定め、今年度の試験問題から対応していくこととなりました。

なお、外国人介護福祉士候補者が介護福祉士国家試験を受験するのは、来年度(平成23年度)以降の試験です。

詳細は別添資料をご参照ください。

今後の介護福祉士国家試験における難しい用語の取扱いについて

1. はじめに

介護福祉士国家試験については、「規制・制度改革に係る対処方針」(平成22年6月18日閣議決定)の中で、国家試験における「EPAに基づく看護師、介護福祉士候補者への配慮」が規制改革事項として挙げられ、平成22年度中に措置されることになりました。

また、「東アジア共同体構想に関する今後の取組について」(平成22年6月1日政府とりまとめ)及び「新成長戦略について」(平成22年6月18日 閣議決定)においても、看護師国家試験及び介護福祉士国家試験のあり方に関して検討、あるいは見直しを行うことになっています。

看護師国家試験については、8月24日に公表された「看護師国家試験における用語に関する有識者検討チーム」の報告書によって、今後の対応について一定の方針が示されています。

経済連携協定(EPA)によって我が国が受け入れている介護福祉士候補者が介護福祉士国家試験を受験するのは来年度以降ですが、これら閣議決定等を踏まえ、看護師国家試験での対応方針を参考にしつつ、今年度の試験から全受験者を対象とする措置として、以下の方向で対応することにしました。

なお、具体的な取扱いについては、今後、試験問題を作成していく中で、個々の問題文や用語に即して、個別に判断します。

2. 基本的な考え方

介護福祉士国家試験は、介護福祉士として必要な知識・技能を有しているかどうかを確認するために行うものです。

そのため、試験で使用されている難しい用語の取扱いについては、利用者の安全確保に影響することがないか、介護の専門職として当然に知っておくべき用語か、医師・看護師・介護支援専門員など関係職種と連携して業務を行う上で支障が生じないかといった観点から検討しました。

3. 易しい用語に置き換えるなどの措置を講じても、介護現場が混乱しないと考えられる用語

介護福祉士国家試験で用いられている一般的な用語のうち、易しい用語に置き換えても、介護現場が混乱することがないと考えられるものについては、以下の方針で見直しを行います。

i 易しい用語への置き換え

- 難しい表現は、易しい用語を使って置き換える。
例)光源を設ける → 照明を設ける
- ただし、介護現場で広く定着しているものは、置き換えない。
例)介助する

ii 難しい漢字への対応(※ すでに一部実施済み。)

- 常用漢字以外の漢字については、原則としてふりがなを振る。常用漢字であっても、読み方が紛らわしいなど、個々に必要と判断されるものについては、ふりがなを振る。
きちようめん
例)几帳面な

iii 複合語の分解

- 長い複合語で分解しても問題ないものは、言葉を補い、わかりやすい表現とする。
例)加齢変化 → 加齢による変化

iv 主語・述語・目的語の明示

- 日本語として不自然でない範囲で主語、述語、目的語などを明示する。
例)安定した姿勢を保持する方法に関する次の記述のうち、
→ 要介護者が安定した姿勢を保つ方法に関する次の記述のうち、

- v 曖昧な表現の明確な表現への置き換え、固い表現の柔らかい表現への置き換え、句読点の付け方の工夫、否定表現はできる限り肯定表現に転換するなど、日本語として分かりやすい表現にする。

4. 介護、福祉、医療などの学問上・法令上の専門用語

専門用語は学問の体系を反映するものであり、一つ一つに厳密な定義があります。介護、福祉、医療等に関する専門用語についても、用語として定着させるまでの学問的・体系的な積み上げと長い歴史があります。これを易しい日本語に置き換えるなどと、学問の体系が崩れたり、意味が不正確になってしまうことがあり、現場に混乱が生じます。従って、介護福祉士として知っておくべき学問上の専門用語の置き換えは原則として行いません。

また、「介護支援専門員」、「地域包括支援センター」、「自立支援給付」など、介護福祉士として知っておくべき法令上の専門用語についても、これらを知らなければ専門職としての業務を行えないことから、易しい用語への置き換えは原則として行いません。

ただし、例えば、用語よりも内容を問う問題文や状況説明文などで、必ずしも専門用語で厳密に表現する必要がない場合には、できるだけ易しい用語で表現します。

また、試験問題中の難しい漢字については、一般的な用語と同様にふりがなを振ったり、国際的に認定されている英字略語がそのまま使用されている場合には意味の明確化を図るなど、可能な範囲で改善します。

i 難しい漢字への対応(※一部実施済み)

- 常用漢字以外の漢字については、原則としてふりがなを振る。常用漢字であっても、読み方が紛らわしいなど、個々に必要と判断されるものについては、ふりがなを振る。

げり まひ
例) 下痢 麻痺

ii 英字略語への対応

- 英語の正式名称及び一般的に使用されている日本語訳を併記する。

例) ADL → ADL(Activities of Daily Living; 日常生活動作)

iii 疾病名への英語併記

例) 肺結核 → 肺結核(pulmonary tuberculosis)

※ 症状名への英語併記は行わない。

iv 外国人名への原語併記(※実施済み)

例) リッチモンド → リッチモンド(Richmond, M.)

※ 人名以外の、片仮名で表記されている専門用語については、原語併記は行わない。

(参考)介護福祉士国家試験過去問題の用語の置き換え例

※ この置き換え例はあくまでもイメージであり、実際に出題する問題については、個々の問題文や用語に即して、個別・専門的に判断します。

【例1】

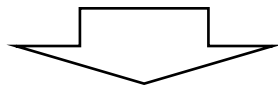
(置き換え前)

高齢者の加齢変化に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 下肢筋力は保たれる。
- 2 肺活量は低下する。

(3・4 …)

- 5 聴覚では、高音域に比べ低音域が障害される。



(置き換え後)

高齢者の加齢による変化に関する次の記述のうち、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 下肢の筋力は保たれる。
- 2 肺活量は低下する。

(3・4 …)

- 5 高音域に比べ低音域が聴こえにくい。

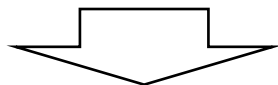
【例2】

(置き換え前)

片麻痺のある在宅高齢者の転倒予防に配慮した住環境に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 夜間の移動に配慮して、足元に光源を設ける。

(2・3 …)



(置き換え後)

まひ

片麻痺のある在宅高齢者の転倒予防に配慮した住環境に関する次の記述のうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 夜間でも安全に移動できるように、足元に照明を設ける。

(2・3 …)

第24回介護福祉士国家試験問題における難しい用語の取扱い

介護福祉士国家試験における難しい用語の取扱いについて、候補者などに対して配慮するため、試験問題中で使用される難しい用語を一部見直し、分かりやすい表現にした。今回の試験では、全120問中、127カ所について改善を実施。

※EPA候補者の最初の受験（平成24年1月）の前年度より実施

見直しの概要

- ① **常用漢字以外の漢字については、原則としてふりがなを振る。**常用漢字であっても、読み方が紛らわしいなど、個々に必要と判断されるものについては、ふりがなを振る。

例) 石^{けん}鯨 葛^{かっとう}藤 甥^{おい}

- ② **易しい用語に置き換えても現場が混乱しないと思われるものについては、置き換え、複合語の分解、平易に表現する等の方法で見直しを行う。**

- ③ **介護、福祉、医療などの学問上・法令上の専門用語は、原則として置き換えないが、難しい漢字にはふりがな、英字略語には正式名称と日本語訳をつけ、疾病名には英語を併記するなどの改善を図る。**

- 常用漢字以外の漢字については、原則としてふりがなを振る。常用漢字であっても、読み方が紛らわしいなど、個々に必要と判断されるものについては、ふりがなを振る。

例) 咀嚼^{そしゃく} 嚙下^{えんげ} 清拭^{せいしき} 麻痺^{まひ} 虐待^{ぎゃくたい}

- 英語の正式名称及び一般的に使用されている日本語訳を併記する。

例) ADL→ADL (Activities of Daily Living;日常生活動作)

ICF →ICF (International Classification of Functioning,Disability and Health;国際生活機能分類)

- 疾病名への英語併記

例) 認知症 (dementia) 脳梗塞 (cerebral infarction) 糖尿病 (diabetes mellitus)

- 外国人名への原語併記

例) マズロー (Maslow,A.H.) キューブラー・ロス (Kübler-Ross,E.)

第24回介護福祉士国家試験の問題例(1)

問題19

関節リウマチ(rheumatoid arthritis)があるEさん(88歳、男性、要介護3)は、家族と同居して、訪問介護を利用している。訪問介護員に「家族に介護の負担をかけるのではないかと、今後の生活に不安を持っていることを話した。訪問介護事業所で今後の支援について話し合うことになった。

Eさんへの支援のあり方として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 家族に訪問介護のサービス内容を選択させる。
- 2 Eさんには訪問介護サービスに関する情報提供を控える。
- 3 Eさんから今後の介護サービスについての要望を聴く。
- 4 Eさんの介護は、サービス提供責任者の判断を優先する。
- 5 Eさんが苦情を述べていないので問題はないと考える。

第24回介護福祉士国家試験の問題例(2)

問題51

えんげ

嚥下機能が低下している利用者の食事介助として、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 飲み込むときは頭部を後ろに傾ける。
 - 2 スプーンの一口量は多くする。
 - 3 食べ物は口腔の奥に入れる。
- そしゃく
- 4 咀嚼しているときに、次に食べるものを説明する。
 - 5 食べ物を口に入れたら、口唇を閉じるように声かけする。

問題97

マズロー(Maslow,A.H.)の欲求階層説に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選びなさい。

- 1 承認欲求は生理的欲求である。
- 2 最下層にあるものは自己実現の欲求である。
- 3 欲求を4段階に分類している。
- 4 所属・愛情の欲求は最上層の欲求である。
- 5 安全欲求は欠乏欲求である。